

取組名称	人と地域と自然をつなぐ流域再生の実践－多主体共創で拓く心豊かな未来			団体設立後の経過年数	22年
応募取組主体名称	九州大学流域システム工学研究室	活動地域	福岡・九州・日本	応募取組の活動年数	22年
取組主体の種別	企業 / <u>学校</u> / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手が中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境とづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

私たちは、持続可能で豊かな社会の実現のために、地域住民や行政等多様な主体と共創して流域環境を保全・再生する実践活動に取り組んできました。内容は、科学的知見に基づく環境と防災を統合した河川改修計画とその実装、災害復旧支援、住民参加WSや合意形成、環境教育活動等多岐にわたります。最大の特徴は、学術研究・教育と社会実装を常に連動させ、多様な主体と楽しく学び合いながら、社会実装・地域活性化につなげている点です。

実績の要旨

国内30以上の河川・地域において多様な主体と共創し、コンクリート水路化した河川の自然再生、水生生物生息場の保全、歴史的な河川構造物の保全、河川を軸にしたまちづくり等の社会実装を達成してきました。15年以上にわたりプロジェクトサイトで取り組む環境教育の受益者はのべ1万5千人以上にのびます。学際研究・教育・実践を連動した一連の成果は多くの賞を受賞、教科書や行政資料等で広く紹介されるなど社会的に高く評価されています。

取組評価の要旨	環境への貢献	これまで国内30を超える流域で、住民や河川管理者等の多様な主体と共創して河川環境を再生するプロジェクトを実践してきました。
	社会・経済への貢献	プロジェクトに取り組んだ流域では川を通じた人のつながりも再生。地域活性化につながっています。地価の向上にも貢献しています。
	地域資源の活用	再生した河川そのものが地域の教育資源・地域活性化資源・経済的資源として活用されています。間伐材や現地発生材の活用も推進しています。
	普及・汎用性	いくつかのプロジェクトは行政資料、文科省認定教科書等に優良事例として掲載。全国の同様の課題を抱える地域や事業を勇気づけています。
	革新・ユニーク性	徹底的な科学的知見と、地域の歴史や人々の思いを融合させ、あらゆる関係者と共創して持続可能な社会を実践する活動を展開している点。
	継続性	常に多様なステークホルダーを巻き込みながら、環境教育等の楽しい活動と維持管理等の必要な活動を関連付けて取り組んでいます。

展望の要旨

「多様な主体と共創し実践する」ことを大切にしつつ、世界で同様の課題を抱える地域や人々へもつながるように、国際的な連携と発信にも力を入れています。